

大磯町国府本郷地区山口家の御札資料からみる信仰範囲

* 保坂 匠

1. はじめに

大磯町郷土資料館では大磯町内2家から寄贈された御札資料を収蔵している。

御札とは、神霊またはその超自然力を示す象徴物及びそれを記したものであり、神棚や住居内外に納めるもしくは貼られる木や紙の札である。一年間祀ると効力を失うとして、ドンドヤキにおいて焚き上げるか、寺社へ納めるのが一般的である。郷土資料館に寄贈された2家の資料は、焚き上げられるはずの御札を何らかの理由で残しておいたものである。御札を残しておく事例は全国的に散見される。千枚溜まると火伏せになるなどとして千枚札と呼ばれる。もしくは俵に入れられていることがあるため俵札とも呼ばれている（以後千枚札と呼称する）。千枚札は、江戸末期（兵庫の事例のみ江戸前期）から昭和初期までの御札であることと全国の寺社の御札がみられることが主な特徴である。しかし、神棚に祀る氏神の御札や天照皇大神の御札は、残している家と残さない家があり、家によって残しておく御札を選択していたことが指摘されている。点数は数十枚から数千枚と開きがあり、保存方法も箱に入れる、俵に詰める、梁にくくりつけるなど様々である。

このような千枚札は、江戸期から昭和初期にかけ

ての信仰を示す資料として、研究者や自治体により整理され報告書や論文が出されている。そこでは千枚札を整理し分類することで、信仰範囲や神職として御札を頒布していた御師の活動などが分析されている。特に御札の受容方法からみる受容圏と発行地域（寺社）からみる信仰範囲の2つの分類が主に行なわれている。

受容圏については、時枝務氏が「守札と信仰——農家における守札の存在形態——」の中で4つの型を設定している。1型. 氏神、檀那寺から受ける場合、2型. 直接受けてきた場合、3型. 遠方寺社への土産、4型. 神職を通して毎年定期的にもたらされる場合である。時枝自身が述べている通り、いくつかの型に該当する御札もあることから、明確に分類することが出来ないことが問題である。

信仰範囲については、市町村単位や当家との距離からその範囲を設定している。例えば、『宮代町史資料 第九集 祈りの札』では、守札の分布として①. 同市町村内、②. 同県内、③. 同地方（関東など）、④. その他の地方、以上4つに分類している。信仰や交流の広がりを見るためには十分有用な分類方法であると考えられる。

当館が収蔵している2家の御札資料も千枚札と考えられる。2家の御札資料を分類することで、かつて大磯町内で存在していた信仰やその範囲、御師の活動を考えてみたい。本稿では、まず山口家の御札資料から、国府本郷地区の一家の信仰範囲を示すものである。

本稿では受容圏の分類を試みるには資料不足であるため、信仰範囲の分類を試みるものである。しかし、前述の分類を大磯町の御札資料にそのまま適応することはできない。なぜなら「③. 同地方」を関東地域としてしまうと、大磯町は関東の西の端にあたり関東他県よりも静岡県の方が近いにもかかわらず、静岡県が他地域に分類される。そして、より遠方の茨城県が同地域として分類されてしまう。そのため、隣県の東京都と静岡県を「③. 隣県」として分類する。

表. 1 発行元寺社と点数

発行元寺社	場所	点数	祈願・内容
真勝寺	大磯町国府本郷	2	風雨順時 攘災到福 五穀成熟、御影
清生山 観音寺	大磯町生沢	7	仁王経御祈禱札
相生生沢村稲荷	大磯町生沢	1	御影
真田神社(天王宮)	平塚市	1	轉讀大般若経札
長泉寺	平塚市	1	星祭
吾妻神社	二宮町	2	祈祷札、御影
大山寺	伊勢原市	19	諸人快樂五穀成就家内久伏 雨風大小守護 除雷、牛王宝印、尊勝陀羅尼誦誦札、三面大黒天御影、大天狗宝印、祈祷札、石尊大権現、不動明王祈願札
一の沢浄苑願寺	伊勢原市	8	三千禮御札
大山御師神崎富大夫	伊勢原市	7	延命
粕屋神社(現、高部屋神社か)	伊勢原市	1	家内安全
比々多神社	伊勢原市	1	疫神除け御祓札
江ノ島弁才天御師	藤沢市	5	祈祷札、御影
大雄山最乗寺	南足柄市	3	祈祷札、道了尊御影、御金印
平間寺	川崎市	3	厄除け祈祷札、海中出現内符
御嶽山御師	東京都青梅市	5	御祓札
富士東口御師 小松坊善大夫	静岡県駿東郡	4	御祈禱祓札
豊川稲荷	愛知県豊川市	2	豊川大明神守護札
津島神社互大夫	愛知県津島市	1	津島牛頭天王厄除け札
鹿島神宮	茨城県鹿嶋市	1	御守
金比羅宮	不明	1	御守
不明	不明	31	
	合計	106	

(※ 当館学芸員)

2. 山口家の御札資料

山口家は大磯町国府本郷地区の中丸とよばれる旧東海道沿いに位置している。この旧街道沿いの地区は、商家の名を屋号にもつ家が多く、商業地区であったと考えられている。山口家もその一つであり「コウジャ」と呼ばれ、神奈川県内外とも交流があったと伝えられている。

御札資料は、関東地方と中部地方の寺社が発行した106点からなる。御札の発行寺社は、東は茨城県鹿嶋市鹿島神宮から西は愛知県津島市津島神宮(香川県金比羅宮の御守がみられるが、小祠など無数に存在するため発行地は不明とした)まで遠方の寺社がみられる(表. 1)。山口家の檀那寺は同地区の宝前院、氏神は国府新宿地区にある六所神社であるが、この2つの寺社の御札や現在神棚に祀られている御札(氏神である六所神社、荒神さんの御札)は、残されていない。山口家資料の年代は、富士山東口御師や大山御師など御師の名が摺られているものがあることから、江戸期に発行されたと考えられる。御師とは、神社や寺に属し各地に檀家をもつ宗教者であった。檀那場(檀家がいる地域)を廻り祈祷や御札の配布をすることで初穂料を取っていた。檀家が参詣する際には、宿坊となり神楽の奏上や案内役ともなっていたのである。このため代参講とも積極的に関わっていた。しかし明治期になり、明治政府の神祇制度改革によって衰退し旅館に姿を変える御師も多く、また先導師と名乗って存続する場合もあった。

その他、江戸期の御札と考えられるものに白澤図がある。白澤図は中国起源の想像上の神獣である白澤を描いた紙札で、旅の道中安全を祈って懐に忍ばせていた。他にも、修験系の御札と考えられるものや紙の絵馬など現代ではあまりみられなくなったものが多く、当時の習俗を理解する貴重な資料である。



図. 1 真勝寺、観音御影



図. 2 生沢稲荷大明神御影

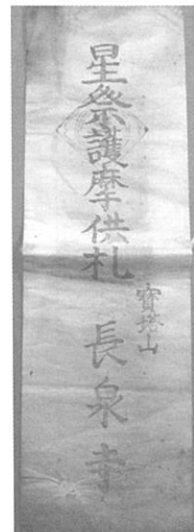


図. 3 長泉寺、
星祭護摩供札



図. 4 吾妻大権現御影

3. 山口家の御札資料からみる信仰範囲

①. 大磯町内の寺社

山口家が位置する大磯町国府本郷地区では真勝寺2点がある。真勝寺は相州新西国三十三観音霊場第十番札所である。御札2点の内1点は如意輪観世音菩薩像が摺られた御影(図. 1)であり、1点は攘災致福の祈禱札である。

隣接地区では生沢地区の生沢稲荷1点、清生山観音寺7点がみられる。観音寺は、相州新西国三十三番観音霊場第七番札所である。7点とも「仁王経御祈禱札」とあり、攘災や延命長寿などを願う仁王会・仁王講の痕跡と考えられる。生沢の稲荷は、生沢だけでなく小田原や平塚など遠方の人々から寄付を受けていた。秦野市蓑毛、湯山家の千枚札からもみつかっていることから神奈川県西部の人々から信仰を受けていたことが分かる。この1点は、稲荷大明神と書かれた男神の御影(図. 2)である。この御札には「為悦衆生故 現無量神力」と法華経の一節が記されている。「南無稲荷大明神」と書かれていることから、神仏混交の時代に作られたものであることがわかる。

②. 県内の寺社

県内では、平塚市の長泉寺1点、真田神社1点、二宮町の吾妻神社2点、伊勢原市の大山関係19点、一の沢浄苑願寺8点、大山御師神崎富大夫7点、比々多神社1点、粕屋神社1点、藤沢市の江ノ島弁財天御師が5点、南足柄市の最乗寺3点、川崎市の平間寺3点がみられる。

平塚市は、大磯町の北と東の境を接し、地域的結びつきが強くある。長泉寺の1点は星祭の護摩供札(図. 3)である。星祭は、密教で、除災・求福のために当年星または本命星を祭ることである。同市の真田神社(真田宮、天王宮)の1点は、「奉轉讀大般若

経」とあり、大般若経転読会が行われたことを示している。真田神社は「真田の天王さん」と呼ばれており、御札にも「真田宮天王宮」とある。夏には農具市やホオズキ市が立ち、この日に参詣すれば、夏風邪をひかないと言われていた。周辺村落の人々が集まり賑わったそうだ。

二宮町は大磯町の西に隣接し、平塚市同様地域的結びつきが強い地域である。二宮町梅沢の吾妻神社から2点受けてきている。1点は祈祷札であるが、内札に「吾妻大権現御祈禱御守護」と摺られた御札が入っている。1点は吾妻大権現像が描かれた御影(図.4)である。吾妻神社の御札は平塚市や秦野市で見付かった千枚札にもみられ、女性の災厄除けの御札を発行している。

伊勢原市は大山を擁しており、神奈川県内には大山道が張り巡らされ往來の多い地域である。国府本郷地区からは20キロほど離れており、歩いたとしても1日で往復可能な距離である。大山は不動明王を本尊とする大山寺と奥宮である石尊権現、大天狗社など諸社寺からなる霊山である。明治期の神仏分離政策により石尊権現が阿夫利神社となった。御札は、牛王宝印9点(図.5)、尊勝陀羅尼の読誦札4点、三面大黒天御影2点、石尊大権現、不動明王の祈願札2点、大天狗宝印1点(図.6)、祈祷札1点、である。牛王宝印とは、鳥や蛇を用いた独特の字体で「~寺牛王宝印」や「~社宝印」と書かれた御札で、火除けや病気平癒などさまざまな効能がある御札である。尊勝陀羅尼の読誦札は、仏頂尊勝の功德を説く陀羅尼で、靈験があるとされ密教や禅宗で読誦される。この御札には、「奉誦尊勝陀羅尼千遍」とあり、読誦を1000回した靈験ある御札として配られたものである。大山御師の名が摺られた御札が7点ある。明治期に著された『大山開導記』によれば国府本郷村を檀那場としている大山御師は、逸見民衛、佐藤

衛三郎、沼野一路の3名が記録されている。しかし山口家の御札資料には「神崎富大夫」とある。『大山開導記』に「神崎富大夫」の名もみられ、時代が異なっているのか記入漏れかは不明である。『大磯町民俗調査報告書3 国府の民俗』には大山講がかつて存在していたことがうかがえ、山口家が講に参加し御師と関係していた可能性があるだろう。浄発願寺は三千禮御札である。これは、三千の仏の名を唱え罪障を懺悔し消滅を祈る仏名会の際に配られた御札であろう。比々多神社は相模国三宮である。御札には「御祓」と摺られており、疫神除けの御札であると考えられる。比々多神社では、現在でも疫神除けの御札を頒布している。粕屋神社は、高部屋神社のことだろうか。上粕屋に五霊神社は2つあり発行寺社は不明である。この1点は家内安全の祈祷札である。

藤沢市の江ノ島弁財天は、江戸期に江戸の庶民から信仰され、芸能上達、福德円満、海上安全の神とされていた。御札は、江ノ島御師「片野左内」と書かれている祈祷札1点、その他は御師「片野左内」の名が摺られている御影(図.7)が4点ある。江ノ島御師は、江ノ島弁財天の本宮、上ノ宮、下ノ宮それぞれを司る岩本院、上ノ坊、下ノ坊の3宿坊である。後に岩本院が他の宿坊を吸収していることから、岩本院から配られた御札であろうか。

南足柄市の最乗寺は、大雄山の山号でも知られ開山は庵慧明である。創建に協力した道了という僧が、寺の完成と同時に天狗になり山中に身を隠したと伝えられることから「道了尊」とも呼ばれる。御札は祈祷札が1点、天狗姿の道了尊御影が1点(図.8)、御金印と摺られた御札1点である。

川崎市の金剛山平間寺は、通称「川崎大師」として知られ、海中から引き上げられた弘法大師像を祀ったことを起源として伝えている。また、厄除信仰



図.5 大山牛王宝印

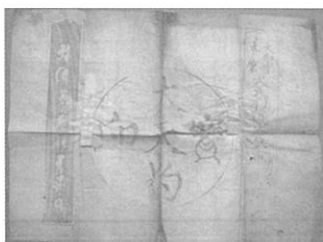


図.6 大山大天狗宝印



図.7 江之嶋弁財天御影



図.8 道了尊御影

の霊場として信仰を集めている。3点の御札も厄除けの祈祷札である。内2点は「海中出現」と摺られ、祈祷札の中に入れられる内符のみである。

③. 隣県（東京都、静岡県）

隣県では、東京都御嶽山御師5点、静岡県富士山東口御師4点が挙げられる。

武州御嶽神社は、東京都青梅市にある御岳山に鎮座している。農業の守護として関東一円で信仰され、明治末期から大正期には神奈川県内のほぼ全ての市町村に武州御嶽講が存在していた。現在でも「大口真神」が描かれた御札を家の玄関や蔵に貼っている家がある。『大磯町民俗調査報告書3 国府の民俗』は、かつて国府本郷地区に御嶽講が組織されていたことを記録している。同地区では廃れてしまったが、西小磯地区や虫窪地区では現在でも御札を貼っている家がみられる。山口家の御札には、5点の御祓札の内3点「片柳内匠」、2点「片柳能登守」と2名（2代か）から受けていたことが分かる。国府本郷地区の人々が御嶽講中を作り御嶽御師と檀家関係にあり、山口家も参加していたと考えられる。

富士山東口御師は、富士山登山道須走口を通る信者、特に江戸期に流行した代参講の人々を受け入れていた。明治期には富士山信仰のひとつである丸山教が広がっており、国府本郷地区にも丸山教に参加していた人々がいたようだ。旧吉田茂邸横には「丸山講中碑」があり、この地区に富士山信仰が存在していた痕跡である。丸山教は明治期の信仰であり、富士講をまとめあげる扶桑教から独立した団体である。山口家が富士講に参加していたとしても不思議はない。山口家資料には御師小松坊善大夫の発行した4点が残されている。4点とも「御祈禱祓」の御札である。

④. その他の地方

その他の地方では、愛知県豊川稲荷2点、愛知県津島神社御師1点、茨城県鹿島神宮1点がみられる。

豊川稲荷は正確には豊川閼妙厳寺と呼ばれる寺院で、豊川陀祝尼天を鎮守としている。秋葉街道沿いの寺社のひとつとしても知られる。御札は2点とも「奉祈念正一位豊川大明神守護依（所）」と摺られた御札である。

津島神社は建速須佐之男命を祀るが、天王信仰の普及によって津島牛頭天王社と呼ばれるようになる。疾病除け、厄難除けの神徳があるとされる。御札には「津島牛頭天王互大夫」と摺られ、御師により頒布された津島牛頭天王の厄除け札（図.9）である。

鹿島神宮は武甕槌大神を主祭神とし、軍神であり航海神として信仰されていた。毎年下級神人による事触が正月年頭から諸国を触れ回っており、神奈川

県では相模湾一帯に事触の際の踊りから派生した鹿児島踊りが伝えられている。山口家の御札では「御守」が1点あるのみである。

行政単位で分類すると以

上ようになる。しかし、信仰範囲は、現在の行政単位と合致するものではない。よって寺社の密度と御札の発行数から再分類する必要がある。

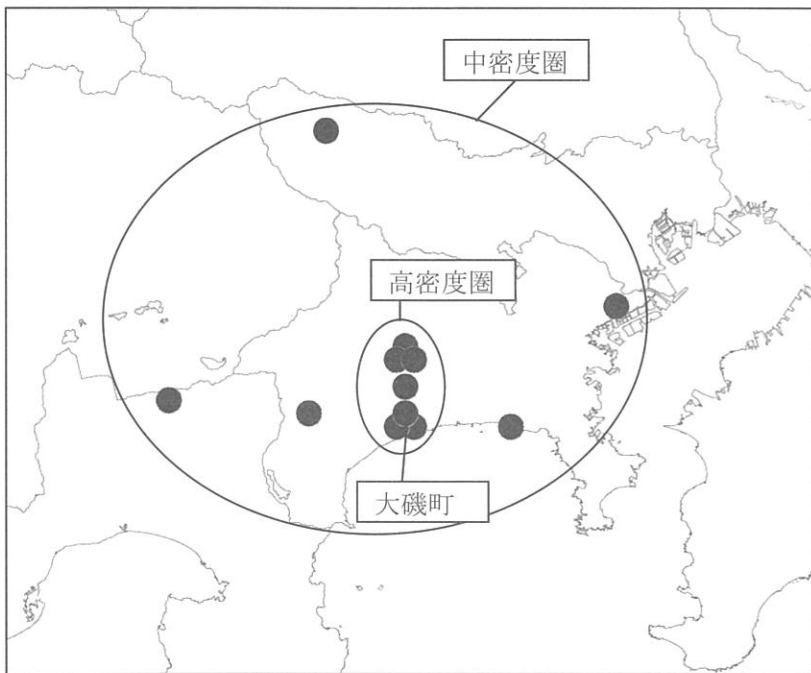
まず、大磯町（真勝寺、観音寺、生沢稲荷）とその隣接市町村である二宮町（吾妻神社）、平塚市（真田神社、長泉寺）を含む範囲が最も密度の高い地域である。これらの寺社は国府本郷地区と近隣の市町村から信仰を集めている寺社である。この範囲は、国府本郷地区から約10キロ圏内である。しかし、伊勢原市域の寺社（大山寺、粕屋神社、浄発願寺、比々多神社）も同様に密度が高い。これらの寺社は、約20キロ離れた大山寺までの途上や大山周辺寺社である。大山信仰の強さによるところであろう。伊勢原市域が突出する形になるが、大山周辺や大山までの道のりの寺社と二宮町、平塚市の寺社を国府本郷地区周辺を「高密度圏」と考えることができる（地図参照）。

次に神奈川県内（江ノ島弁財天御師、最乗寺、平間寺）と隣県（御嶽神社、富士山東口御師）の寺社は、関東地域や全国から参拝者が訪れる寺社である。国府本郷地区から約20キロ以上距離があり、10キロ圏内の寺社とは明らかに信仰されている範囲、寺社の規模が異なる。さらに、この範囲の御札は20枚の内14枚が御師から受けた御札である。この範囲は、御師の活動圏、御師の宿坊に泊まらなければならない、代参講などにより詣でる寺社、つまり参拝頻度が減る距離にあると考えられるだろう。これを仮に「中密度圏」と言い表すことにする（同地図参照）。最後に、その他の地域である。豊川稲荷、津島神社御師、鹿島神宮の3寺社は点数が少なく、聞き取りの際も名前が挙がらなかった。仮に「低密度圏」とする。豊川稲荷、津島神社は伊勢参りや秋葉参りの際に立ち寄る寺社であるが、山口家の御札資料の中には伊勢神宮や秋葉神社の御札はない。しかし伊勢参りや秋葉講は、『大磯町史』にも表れているため、伊勢神宮や秋葉神社参拝の際に豊川稲荷、津島神社に参拝していた可能性はあるだろう。

以上の3つの「密度圏」に分類することができた。この範囲が普遍的なものかを探るには、他家の千枚



図.9 津島牛頭天王厄除札



地図 神奈川県周辺の社寺密度(テクノコ白地図イラスト: <http://technocco.jp/>)

札も分類し比較する必要があるだろう。

発行寺社別の点数を見てみると、最も多く御札がみられるのは、大山寺で19点、大山御師も合わせると26点になる。最も厚く信仰していた寺社の1つと言えるだろう。次に伊勢原市の沢浄発願寺が8点、大磯町生沢観音寺7点、と「高密度圏」と一致する。

「中密度圏」は、江ノ島弁財天5点、東京都御嶽山御師5点、静岡県富士山東口御師4点である。「低密度圏」は、愛知県豊川稲荷2点、愛知県津島神社1点、茨城県鹿島神宮1点と遠方ほど減っていく傾向がある。密度と数量はある程度連動していることがわかる。

御師の名が摺られている御札からは、御師の活動を窺い知ることが出来る。大山御師、江ノ島弁才天御師、御嶽御師、富士山東口御師、津島神社御師が山口家と関係していたことがわかる。先に述べたように御師は、檀那場廻りや代参などの参詣の際に御札を配布していた。当地における御師の活動と講の活動を探るには、民俗誌や古文書を参照する必要がある。『大磯町民俗調査報告書3 国府の民俗』には「大山講、御嶽講、秋葉講」が存在していたとされている。秋葉講に関する御札は山口家資料にはみられないが、大山講と御嶽講は御師の名が摺られた御札がある。山口家が講中に参加していた、もしくは御師の檀家であったと考えられる。

4. まとめ

千枚札の分類により、信仰範囲や御師の活動を見ることが出来る。しかし伊勢神宮や地域の寺社が少ないもしくは残されていないことを注意しなければ

ならない。また、千枚札自体については、分からないことがまだ多い。特に残す御札は家によって異なり、神棚に祀る御札において顕著に現れているようだ。

山口家の御札資料では、現在神棚に祀っている六所神社の御札がみられないが、大磯地区真壁家の御札資料には神棚に祀る高来神社の御札が27点ある。家によって残す御札の選択基準が異なることが分かる。

この問題は、御札を残した人々のものつ御札や神棚、神などの観念を考える上でひとつの資料となる。資料整理の方法もまだ未確定であり、資料同士が貼り付いている場合などを1点とするかどうかなどで資料点数が変わってくる。今後の課題としたい。

最後にお忙しい中貴重なお話をお聞かせいただいた浦田家、山口家の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

参考文献

- ・大磯町 『大磯町史8 別編 民俗』 2003年。
- ・大磯町 『大磯町民俗調査報告書3 国府の民俗』 1993年。
- ・大磯町教育委員会 『大磯町文化財調査報告書36集 石造物調査報告書(5)』 1992年。
- ・喜代吉栄徳「徳島県・安丸家の俵」 『四国辺路研究』、第14号 1998年。
- ・小松淳子「家に残された守札—小山市大川島 青木家文書から—」 『小山市立博物館紀要』 第4号 p.39-p.54 1994年。
- ・菅野幸裕「守札の分析による村落の信仰—兵庫県福崎町の事例を中心に—」 『民具マンスリー』 第24巻5号 p.5-p.14 1991年。
- ・世田谷区立郷土資料館 『特別展 社寺参詣と代参講』 1992年。
- ・圭室文雄、平野栄次ほか編 『民間信仰調査整理ハンドブック《下・実際編》』、雄山閣 1987年。
- ・時枝務「守札と信仰—農家における守札の存在形態—」 『民具マンスリー』 第20巻12号 p.9-p.16 1988年。
- ・秦野市 『秦野市史民俗調査報告書3 漂白と定住・御師の村』 1984年。
- ・八王子市郷土資料館 『家内安全・無病息災～庶民の願い～』 2011年。
- ・平塚市 『平塚市史12 別編 民俗』 1993年。
- ・宮代町教育委員会 『宮代町史資料 第九集 祈りの札』 1995年。